

第59回全九州中学校進路指導・キャリア教育研究大会

大分大会 開催要項

1 目的

激変する社会環境の中で、子どもたちは、現在および将来を生き抜くために必要な「生きる力」の育成が強く求められている。私たちは、学校教育の果たすべき役割をキャリア教育（進路指導）の視点に立って見直し、家庭・地域社会と連携して学校教育の一層の充実を図りたい。

本研究大会では、大会主題「未来へ力強く向かう力を育むキャリア教育」を踏まえ、「他者と協働する中で自分のよさや可能性を感じ、自分の将来に見通しをもってたくましく生きていく児童・生徒の育成」を研究主題として設定し、九州各県の研究成果をもとに協議を深め、キャリア教育（進路指導）の推進を図りたい。

2 大会主題・研究主題

大会主題	「未来へ力強く向かう力を育むキャリア教育」
研究主題	「他者と協働する中で自分のよさや可能性を感じ、自分の将来に見通しをもってたくましく生きていく児童・生徒の育成」

3 主催 全九州中学校進路指導・キャリア教育研究協議会
大分県中学校教育研究会進路指導・キャリア教育部会

4 共催 大分県小学校長会 大分県高等学校進路指導協議会

5 後援 公益財団法人日本進路指導協会 全国中学校進路指導・キャリア教育連絡協議会
大分県教育委員会 大分県市町村教育委員会連合会
大分県中学校校長会 大分県学校長協会
大分県PTA連合会 大分県高等学校PTA連合会
公益財団法人日本教育公務員弘済会大分支部

6 期日 令和4年11月11日（金）

7 開催方法 対面・オンラインによるハイブリット開催
（ただし、記念講演はオンライン配信いたしません）

8 会場 J:COM ホルトホール大分
〒870-0839 大分県大分市金池南一丁目5番1号
TEL 097-576-7555/FAX 097-573-6210

9 日程

8 : 5 0 ~ 9 : 2 0	9 : 2 0 ~ 9 : 4 0	9 : 4 0 ~ 1 0 : 2 0	1 0 : 3 5 ~ 1 2 : 1 5
受付 (30)	開会行事 (20)	全体会 (40)	分科会 (100)

1 2 : 1 5 ~ 1 3 : 1 5	1 3 : 1 5 ~ 1 4 : 5 5	1 5 : 0 0 ~ 1 5 : 2 0
昼食 (60)	記念講演 (100)	閉会行事 (20)

10 開会行事・全体会 (9:20~10:20)

		司会	植木 雅子
(1) 開会の言葉	大分県中学校教育研究会進路指導・キャリア教育研究会副会長		平原 一幸
(2) 大会会長挨拶	全九州中学校進路指導・キャリア教育研究協議会会長		林 吾郎
(3) 祝辞	大分県教育委員会教育長		岡本 天津男様
(4) 来賓紹介	大分県中学校教育研究会進路指導・キャリア教育研究会副会長		村上 重行
(5) 祝電披露	大分県中学校教育研究会進路指導・キャリア教育研究会事務局長		田城 貴雅
(6) 閉会の言葉	大分県中学校教育研究会進路指導・キャリア教育研究会副会長		平原 一幸
日程・会場説明	大分県中学校教育研究会進路指導・キャリア教育研究会事務局長		田城 貴雅
基調提案	大分県中学校教育研究会進路指導・キャリア教育研究会研究部長		安部 裕美
校内研究説明	玖珠町立くす星翔中学校 校長		平原 一幸
	玖珠町立くす星翔中学校 研究主任		穴井 清香

11 分科会 (裏面参照)

12 記念講演 (13:15~14:55)		司会	植木 雅子
(1) 講師紹介	全九州中学校進路指導・キャリア教育研究協議会会長		林 吾郎
(2) 講演	国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター 総括研究官 教育課程研究センター 教育課程調査官 長田 徹 先生		
演題	「学習指導要領に込められた願い」		
(3) 謝辞	大分県中学校教育研究会進路指導・キャリア教育研究会副会長		村上 重行

13 閉会行事 (15:00~15:20)		司会	植木 雅子
(1) 開会の言葉	大分県中学校教育研究会進路指導・キャリア教育研究会副会長		安東 勝利
(2) 大会宣言・決議文	大分県中学校教育研究会進路指導・キャリア教育研究会研究部長		安部 裕美
(3) 開催県会長挨拶	全九州中学校進路指導・キャリア教育研究協議会会長		林 吾郎
(4) 次期開催県会長挨拶	宮崎県中学校教育研究会進路指導・キャリア教育部会会長		日高 弘之
(5) 閉会の言葉	大分県中学校教育研究会進路指導・キャリア教育研究会副会長		安東 勝利

第59回全九州中学校進路指導・キャリア教育研究大会 大分大会

- 1 九州大会主題 「未来へ力強く向かう力を育むキャリア教育」
大分県研究主題 「他者と協働する中で自分のよさや可能性を感じ、自分の将来に見通しをもってたくましく生きていく児童・生徒の育成」

2 主題設定の理由

先行き不透明で、価値観の多様化したグローバルな21世紀の社会を、たくましく生きていく児童生徒を育成するためには、教育の在り方にも社会の変化への的確な対応が求められている。また、この激しく変化する社会で生きていくためには、他者と協働する中で自己の生き方を探求する力がより一層求められる。そのため学校では、児童生徒に求められる資質・能力を身に付けさせる進路指導・キャリア教育が一層重視されなければならない。

21世紀中盤の社会を展望したとき、新しい時代を切り拓いていく若者たちが、よりよい今後の社会を形成していくための資質・能力を育む教育環境づくりが急務である。文部科学省も、平成29年に告示した中学校学習指導要領の基本的な考え方として、以下の3点を強調している。

- (1) 子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指すこと。その際、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視すること。
- (2) 知識の理解の質を更に高め、確かな学力を育成すること。
- (3) 道徳教育、体験活動、体育・健康に関する指導の充実により、豊かな心や健やかな体を育成すること。

これらの基本的な考え方は、教育活動全体において、キャリア教育を充実させる必要があることを示している。さらに、中学校学習指導要領総則において「生徒が学ぶことと自己の将来のつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ、各教科の特質に応じてキャリア教育の充実を図ること」とキャリア教育について明記されており、教育活動全体を通してキャリア教育を行うことは、私たち教員の責務であると考えられる。

本県研究会では、校種間の連携を一層強化し、一貫した進路指導・キャリア教育が確保されることが大切であると考え、第35回全九州中学校進路指導研究大会大分大会、第43回同大分大会、第51回同大分大会において、各校種における授業を公開すると共に、その連携の在り方について研究を進めてきた。そこで、これまでの実績を踏まえ、本研究会としては、小学校・中学校・高等学校の発達段階に

応じた「基礎的・汎用的能力」の育成を主眼としたキャリア教育に計画的・継続的・組織的に取り組み、「他者と協働する中で自分のよさや可能性を感じ、自分の将来に見通しをもってたくましく生きていく生徒の育成」を研究主題とし、各校種が連携して実践していくこととした。

「他者と協働する」とは、直面する様々な課題に対し、他者の意見を尊重かつ受容する中で自分の考えをもち、協力し合って課題を解決しようとすることであると捉える。先行き不透明で価値観が多様化した社会で生活し仕事をする上では、自他の状況を把握し、自らの役割を果たそうとする態度や、他者と協力・協働しながら合意形成を図り、よりよい答えを導き出す力を養うことが必要であると考えた。

【人間関係・社会関係形成能力】

「自分のよさや可能性を感じ」とは、日々の学校生活や行事、学校を離れた体験活動などで他者と接する中で自分について新たな発見をしたり、人と触れ合うことや働くこと・新しい体験をすることに楽しみや喜びを見出したりすることであると捉える。これは、「肯定的自己理解と自己有用感の獲得」につながるものであると考えた。【自己理解・自己管理能力】

「自分の将来に見通しをもって」とは、自分らしさを理解し、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自分の生き方を自ら主体的に判断することであると捉える。多様な生き方に関する様々な情報に触れる中で、「こんな働き方をしたい」「こんな生き方をしてみたい」など自分が共感できる生き方との出会いが、生徒の自己形成を促すと考えた。【キャリアプランニング能力】

「たくましく生きていく」とは、目標とする自分像に向かって努力する態度、その中で出会う困難や課題に対して柔軟かつ粘り強く対応することであると捉える。産業構造の劇的な変化、AI（人工知能）に代表される情報革新など激変する時代を生き抜くため、生涯にわたり「やればできる」「いつかはできる」という考えの下、失敗してもめげずに、課題を見つけてさらにステップアップしようと考え、生きていこうとする児童生徒の育成が必要であると考えた。【キャリアプランニング能力、課題対応能力】

このように、キャリア発達の段階に応じた様々な学習活動の展開を通して、自己理解を深めるとともに、将来に見通しをもって自己実現を目指す子どもたちの育成こそがこれからの進路指導の役割であると考え、本研究主題を設定した。

3 分科会の設定

本研究大会においては次の分科会を設定し、研究実践を深め、これからの学校教育におけるキャリア教育の在り方を探究する。

第1分科会 学校運営（カリキュラムマネジメント）に生かすキャリア教育

カリキュラム・マネジメントの充実には、「社会に開かれた教育課程」の理念の実現に向けて学校教育に関わる様々な取組を教育課程を中心に据えながら組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくことが求められる。

三つの側面として

- ①児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと
- ②教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと
- ③教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと

これらを通して、すべての教職員の参加により学校の特色を作り上げていくことが大切である。

本分科会ではキャリア教育の視点を生かした九州各県の実践を交流し、今後のカリキュラム・マネジメントに生かす方途を探る。

第2分科会 教科の指導におけるキャリア教育

各教科、特別の教科道徳それぞれ社会的・職業的自立に向けて必要な能力の育成につなげるためには、まず学習指導要領に示される各教科とキャリア教育との関連性に正しく理解し、その上で、教科等の特質と単元や題材などを生かした創意・工夫が必要となる。児童生徒の日常の学習態度や生活態度は、自分の進路や将来設計に関心・意欲を持つことによって大きな影響を受ける。キャリア発達の支援により、今の学習が将来どのように役立つのかということなどについての発見や自覚が日頃の学習に対する改善につながり、主体的に学ぼうとする意欲の向上が期待できる。本分科会ではキャリア教育の視点を生かした九州各県の実践を交流し、各教科、特別な教科道徳の指導において、キャリア教育の視点を生かした指導方法と評価の方途を探る。

第3分科会 各領域の活動を通じたキャリア教育

総合的な学習の時間及び特別活動は学校という集団活動の中で、良好な人間関係を築く力、集団や社会の一員として活動に参画する力、自己実現を果たそうとする態度などこれからの社会を担っていく児童生徒には必要不可欠な資質・能力を育成することのできる大事な領域である。また、総合的な学習の時間では課題発見・解決能力の育成や学び方やものの考え方を身に付け、問題解決に取り組む姿勢を育てることが求められる。各活動や各教科、領域とも関連させながら全体計画や年間指導計画の作成を充実させ、それぞれのねらいを実現することが重要である。本分科会においては九州各県の実践を交流し、各領域の学習活動の工夫や各教科との連携の工夫などの具体的な方途を探る。

第4分科会 各学校段階（校種間）の接続におけるキャリア教育

就学前から、小学校、中学校、高等学校と成長するにしたがってその発達段階に応じたキャリア教育が必要である。更に、小学校6年、中学校3年、高等学校3年における学年間の移行や、小学校から中学校、中学校から高等学校などの学校種間の移行には連続性を持たせることが重要である。発達段階に応じた体系的なキャリア教育の充実を図るために校種間の相互の取組の理解を深める機会・場の設定、児童生徒の学習・活動の記録等を引き継ぐ連携システムの構築が必要であると考えられる。本分科会においてはこの実現のために九州各県での実践を交流し、具体的な方策や取組の方途を探る。

第5分科会 家庭・地域や企業等と連携したキャリア教育

キャリア教育は一人一人の生き方にかかわる教育であるので、児童生徒自身が様々な体験をし、多くの人と触れ合うことを通じて、生き方について考える機会を設けることが大切である。児童生徒がそのような機会や場を得やすくするには、家庭・地域や企業の理解を得て、連携・協力を図ることが不可欠である。家庭・地域や企業の積極的な協力を得ることでキャリア教育の充実を図ることができるので、家庭・地域や企業との連携が円滑かつ効果的に行われることが望まれる。本分科会においては九州各県での実践を交流し、家庭・地域や企業と分担・連携して組織的に取り組んでいくための教育システムの構築の方途を探る。